

2017年12月19日

大阪市長 吉村 洋文 様
大阪環境審議会 会長 様
大阪環境審議会 生物多様性部会 会長 様
大阪環境審議会 生物多様性部会 委員 様

公益社団法人 大阪自然環境保全協会 会長 夏原 由博
大阪市北区天神橋1-9-13 ハム天神橋202

「大阪市における生物多様性地域戦略のあり方」についての諮問・答申
及び 同地域戦略策定に関する 要望Ⅲ（要望の追加）

日ごろより環境行政やその審議等に、またこのたびは大阪市生物多様性戦略の策定にご尽力いただき、ありがとうございます。

大阪自然環境保全協会は、大阪市生物多様性戦略の策定に関して、今年6月16日付及び9月16日付で、『「大阪市における生物多様性地域戦略のあり方」についての諮問・答申及び同地域戦略策定に関する要望』と『(同) 追加要望』を提出しました。

その後、大阪市より『「(仮称) 大阪市生物多様性戦略 [中間報告]』が提示され、環境審議会では委員の皆様から、また11月19日のシンポジウムでは市民の方々から、様々なご意見が出されました。

「戦略」は生物多様性部会、審議会などを経て答申される運びですが、当協会は、国内第2の都市—にふさわしいものとするため、さらに以下「要望Ⅲ」を提出致します。つきましては、貴市・貴職による今後の審議や答申、策定、さらに策定後の政策施策に採用し、実施していただけますよう強く要望いたします。

要望Ⅲ（要望の追加）

1-1 ■ 全体を通して、現状の問題をまずしっかり把握していただきたい。大阪市内における現在の自然環境・生物多様性の状況に関し、見落とされている点があまりに多く、今かろうじて現存している生物多様性を構築する場としての一端をになう市内の希少な場所への認識が甘すぎると考えます。戦略に記載されていない、市内の守り育成すべき場は数多くあり、それらに対する調査が全くされていないように感じられます。

総じて、戦略策定の上で最も基礎となる、市内の生物多様性資源（生態系サービス含）の質・量の現状やその推移（低下等）の把握がほとんどできていないため、それらをもとにした大阪市としての生物多様性の課題が具体的に示されず、大阪市独自の戦略のビジョン、基本方針も示されない内容になっています（以下2-1 ■関連）。水道記念館の水族の飼育等の現状やその保存といった極めて重要な課題が記載されていないこともこうした問題であり、それらを明確に記載すべきです。

行政のみでこれらを把握するなどすることは難しいため、市民の力と協働して問題を解決するシステムを構築するよう要望します。

1-2 ■ また、海外の方へ水都・大阪を観光案内するときよく尋ねられるのが「市内の川にいる魚などを見ることはできないのか？」といった、生きものや環境のことを知りたいというものです。海外の方の環境への好奇心は大きく、大阪の魅力を発信するためにも、ぜひ水都の中心である中之島界隈に、大阪の魚等水族や水生生物環境を知ることのできる場を設けてください。

2-1 ■ 本戦略の骨格となる「生物多様性を守り・活かすまちの将来像を示す「ビジョン」と「基本方針」

が中間報告には欠落しています。具体的取り組み（5章目標達成に向けた取り組み）を進める上での「目標」に相応する、「将来像＝ビジョン」および「基本方針」を明確に記載することを強く要望します。

2-2 ■ 「評価の過程」「課題とする理由」さらに「課題解決としての具体的な取り組み」を、つながりをもって示してください。現状では市民の理解が進みません。論理的な記述・構成とすることを要望します。

- ・中間報告の4章と5章の間に、大阪市としての、生物多様性戦略の「基本的考え方」と「ビジョン（将来像）」および、それを実現していくための「基本方針」が必要です。これらは、具体的な取り組みを何に向かって進めるのか、進捗管理やPDCAサイクルでの評価を行う上での「判断基準」となるものでもあり、どのような計画立案においては不可欠なものであるはずです。

■委員の方からも初期の委員会にて明確に指摘されていますが、対応されておらず大変問題です。

- ・数十年間の変化と「課題」とが呼応していません。また、「課題」に挙げる4項目に関して、その理由や具体記述がまったく記載されていません。現状の資源の評価および、問題の解析・課題の抽出＝なぜそれを課題としたのか、を示す判断過程が見えません。これは課題として抜け落ちているものをチェックできないということにもつながります。

- ・この過程を踏んではじめて、現状の優れた資質を軸に生物多様性を高め、課題を解決していくための「基本方針」を定めることができるはずです。再度熟考の上、示してください。

- ・現状や実態把握が十分でないとすれば、「十分でないこと」をまずは課題とすべきです。

例えば、i) ‘市民の自然とのかかわりの低下’ という課題への対応と併せて、まず「市民参加で現状把握をすすめる」こと、ii) ‘田畑や草地の生物の減少’ という課題に対して、「都市農地の重要性への理解をひろめること、農地の保全への協力、代替環境の保全・創出をすすめること」、などが後述の取組みに記載されてしかるべきはず。そのような課題解決へのプロセスの具体イメージをもつて、‘個々の取り組み’や‘推進体制’を示してください。

3-2 ■ 戦略全体の進め方として、各施策（計画）の進捗やその管理、そして評価を、いつするかというスケジュール・方策が記載されておらず、戦略全体の有効性・実効性が担保されていません。「計画期間は2020年までの3年間」ですが、戦略を実質的なものとして展開するため、各施策の進捗やその管理、評価を実施するスケジュールや方策について一定担保するよう記載してください。

3-3 ■ また、戦略・各施策の実施目標については「促進する」、「高める」、「目指す」という抽象的な言葉が並んでいますが、計画期間の2020年までやその後においてもどこまで目指すのか、検証可能な目標設定にすべきです。

4 ■ 唯一の具体的な生物多様性認知度について、市政モニター50%は低すぎると考えます。

5 ■ 小学校で博物館に行っている割合が府内の他の市町村に比べて少ないので、生物多様性認知度を上げるためにも学校で博物館を活用すべきです。

6 ■ P59の図・主体間連携について、主体と一般的な役割は書かれているが、具体的にどこが何を担うか、それぞれの主体をどう機能させるかがわからないので明記してください。

7 ■ 外来生物についての記載が少なく、また、緑化に使う外来種についての方針も記載してください。

8 ■ 河川の水質については、水質の改善だけでなく、生物多様性の観点から水環境改善に言及すべきです。

以上